

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました——スイッチいいですか——牟田の一般質問を開始させていただきます。今回は5項目。IT整備活用。雇用、人口減対策につながるものです。民生委員について。税の減免補助について。そして5番目、市の施設について。すべてですね、武雄市の活力向上、人口減対策にちょっとそこはつながっておりますので、やっていきたいと思えます。

武雄市はいろんな夢を見てきました。今回我々議員も改選があり、市長も改選ありました。思い起こせば8年前、樋渡市長がまだ市長になる前いろんな話をしてて、よく言われたのが、武雄の人たちは武雄にはなんもなかもんねと自虐的なことを言っていると。そしてもう一つ言われたのが、住んでる子どもが私は武雄に住んでるんだよと、そういうことを言える誇らしい子どもをつくりたいと。そういうこともおっしゃってました。武雄出身と言うとカンボジアのタケオと全国的に思われている。そういうふうな形で武雄、そこに夢を与えようというのがその時の話でした。

夢でよく言われるのが初夢。初夢で一富士二鷹三茄子。富士っていうのはもちろん縁起がいい。茄は物事を成す。鷹は高く飛んで空を飛び回る。一富士二鷹三茄子のあとにがあるのを御存じでしょうか。一富士二鷹三茄子四扇。扇っていうのは要を中心に広がっていく。中心になるトップが中心に広がっていく。その夢を見るのも縁起がいい。四扇五たばこなんです。四扇五たばこ。たばこは煙が上に上がっていく、どんどん上がっていったら、だから縁起がいい。たばこの夢を見るのも縁起がいいです。一富士二鷹三茄子四扇五たばこ、6番目が6に座頭。これはですね、毛がない、怪我ない、無病息災。（笑い声）一富士二鷹三茄子四扇五たばこ六座頭と、そういうふうなんです、縁起を担いでいるんですけども、例えば今度の教育改革とかいろんな行政、私の夢を見たらひょっとすると縁起がいいかもしれない、きっと代田教育監の夢を見れば教育改革もきちんとうまくいくと。これはちゃんと代田教育監に言いますんで許可はいただいておりますので。そういうふうに夢をとにかく持たなきゃだめなんです。なんでこういう、ちょっとふざけた感じで言ってるっていうか、これはやっぱり夢というのはですね、本当に8年前そういう形で熱く語らせていただきました。これは武雄北中学校の夢プロジェクトですけれども。そういう形で夢っていうのは続いています。いろんな夢があり、質問のほうに徐々に近づいてきているんですけども。これはアメリカのシリコンバレーです。アメリカのシリコンバレーの様子です。道路はものすごくきれいに整備されて情報通信網もきちんと整備され、いろんな面でインフラが整っております。かたやサンフランシスコは道路がたがたでした。なんで、予算がないから、これでバスの運転手さんは済まされました。このシリコンバレー訪れました。市長に御一緒させていただきました。

武雄市はフェイスブック、全国でも、よく全国で初と言われてるんですけども、世界の自

治体でもものすごく早いか、もしくは初だったんですね、市のホームページ、行政のホームページをつくるっていうのは。その中でフェイスブックの本社にもお招きを受けました。これはフェイスブック本社の前ですね、ちょっと私髪の毛もう少しそんぐらいあった頃ですね。その中で市長と一緒に、これフェイスブック本社の中です。いろんなレクチャーを受けたり、いろんなこうやって雑誌社とかなんとかも来ていただきました。

ついでですから内容でどういうふうなレクチャーとかそんな話を聞いたかっていうと、例えばこれは向こうの、日本語で書いてありますけども、向こうでやったです。アメリカ的には大体OKだったらやってみて問題があったら随時直していきましょう、とにかくスピード感を持つてというのがアメリカ的な考えでありました。日本的な考えはこうだというのは、向こうが問題がないと保証されるまでやりませんというのが日本的。どこかに例えばこういうふうな小さい武雄、そして全国的なもんでも、いろんなこういう考え方でスピード感の違いが出てくると思います。これはせっかくでしたからちょっと余談で出させていただきました。これはさっきと一緒にですね、マネジメントは発想の転換が必要。武雄市も今転換をどんどんしていったっていろんな夢を与えていただいております。

ここからが中心になる質問です。前回武雄市の中のインターネットの料金を質問しました。インターネットのインフラの整備っていうのはものすごく重要で、今例えば移住して来る人とか企業もそこがインターネットのインフラがきちんと整ってるかどうかってのを、ものすごく見られます。昔はですね、まず来る企業とか来る人は病院関係がきちんとってるか、そして教育がきちんとってるか、そういうところを見てきたんですけども、今はその中にインターネットのインフラがきちんとできているかっていうのを、ものすごく重要視されます。先の議会でインターネットの料金表出ました。フレッツ光1ギガ1,560円、月額ですね。ケーブルテレビ160メガ。数字は1より少ないんですけども、まあ4分の1以下ってことですね。もっと小さいです、面積ですから。こういうふうな形でやりました。その中で言ったのが例えばケーブルテレビのネット加入世帯が、インターネットですね、加入世帯はこれぐらいあります。そしてこれちょっと先にちょっと飛ばします。これケーブルテレビとNTTを合わせた数です。ものすごく入ってらっしゃいますね。全体でもう43%。例えば田舎のほうの若木町でさえ50%越えてる、西川登町も49、北方町32、武内町43。あら、出ないですね、こういうふうなことになってるんですけども、これで見たら全部のそのインフラ整備でちょっとでも来ているものは丸です。若木町フレッツ光来てません。武内町はフレッツもそしてADSLも来てない、そういう状態です。その中で——ごめんなさい、これを12月議会で質問したときにですね、あるケーブルテレビの会長さんから言われました。(発言する者あり)あるケーブルテレビの、武雄にあるケーブルテレビの(笑い声)会長さんからちょっと半分間違うとうばいと、半分はおうとうかもしれんけど半分は間違うとうばいということと言われました。ここで間違ったことを言ってるつもりはなかったんですけどもいろいろ調べました。

もし間違っていたら申し訳ない。一番大きな数字ですね。フレッツ光は1ギガで4,443円、ケーブルテレビは160メガで6,000円、これさっきの数字と違います。何でかと言えば、ケーブルテレビのほうはテレビに加入してたら1,000円安くなるということで6,000円だそうです。フレッツ光は1ギガで3千なんぼだったんですけども、これプロバイダを入れなきゃいけないんですね、OCNの。プロバイダ入れるとプラスいくらで4,443円。こういうふうに変わってまいります。

そういう中でですね、インフラ整備、武雄市内のこの中のインフラ整備、フレッツ光、そしてケーブル、この2つが大きな柱だと思いますけども、この数字を見て市民の人たちはどちらを選ぶのか、執行部はどちらに力を入れていきたいのか。(発言する者あり)

そういうのをきちんとしてこれから情報網のインフラ整備をやっていかなきゃいけないと思っております。まずは最初の質問であります。これからの武雄市内の情報インフラ整備、どのようにお考えなのか1つ目の質問でお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これごらんになったらもうどっちがいいかっていうのはもう明らかですよ。私は別にケーブルテレビさんとかNTTさんに個人的にどうこう思うのはいないです。ただ市民の皆さんたちにとってどっちがいいだろうかと。しかも私もヘビーユーザー、もう激しく使う一人です。もう実際にね、ケーブルワンだと止まってぼっかやっただですよ、もう。夕方から夜にかけて。もうこれ仕事にもなりませんもんね。特に今、動画が多いじゃないですか、仕事でも結構今動画を使う機会があつてね、あつたときに、そのフレッツ光変えようかなと思ってちょっと変えました。そしたらね、いまだかつて1回も止まってません。ものすごく快適です。体感だとするともう10倍から20倍速いです。例えばもっと簡単に言えばね、ダウンロードでケーブルテレビのケーブルワンがしてたときにダウンロードが1時間かかったとするじゃないですか。今もう10分かかりませんから、同じファイルでも。しかも料金が安いんですよ。だからどう考えても、私別に勧めるわけじゃないんですが個人的に言えばね、もうそっちがいいに決まってるっていうふうにやっぱり思いますよね。だからこれ誤解なきように言えばね、もっといいサービスが出てくればね、もうすぐ僕は乗り換えます、はい。より安くてよりいいものに乗りかえていくっていうのが、消費者が普通に考えることだと思いますよ。

その上で今後なんですけれども、やっぱり高速の情報回線って本当に牟田議員がおっしゃるとおり、一番もうこれから大事になると思います。昭和30年代から40年代は道路、これからの10年はやっぱり速さですもんね、インターネットの。速さと快適さ、ですのでそう考えた場合に、私は高速情報通信網の整備については今回私の公約にも載せています。載せた

上で、これ周辺部を含めた市全域でのね、高速光回線の整備を図ってまいります。そして特に観光客の方々も、もうかなりやっぱりふえてますので、市街地を中心とした公衆無線LANの整備も進めてまいります。

これは今県が古川知事を先頭に、佐賀県もこれ一生懸命されてますので、これはよく連携をして進めてまいりたいと思います。具体的には牟田議員が委員長であるIT特別委員会と、よく御指導いただきながら、具体的な方法については詰めてまいりたいと、このように考えております。(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

静かに。20番牟田議員

○20番(牟田勝浩君)〔登壇〕

今市長がですね、くしくも言ったダウンロードかアップロード、そこなんですね。ダウンロードとアップロードじゃ違うんですよ。わかあですかね。(発言する者あり) ケーブルテレビ、160メガはダウンロードのほうです。ダウンロードだと160メガ、実際はちょっと低いですけども。アップロードは10メガですよ、10分の1以下。ですからダウンロードは160だけどこっちから情報を発信するときは10分の1以下になるんですね。

今からですね、今まではダウンロードが主流だったかもしれないけど、武雄は今から大きく変わっていく中で武雄の情報発信をしなきゃいけない、出さなきゃいけない時期に来てる中でそれが致命的だと思います。例えばフレッツ1ギガ、これはダウンロードもアップロードも1ギガ。だからもう差は圧倒的であります。金額がこれだけ違うと。市長がさっきおっしゃった、例えばこれよりももっといいのが出たらすぐ乗りかえると、ただ今現在武雄市がある選択肢の中でもこれとこれしかないんですね、ほとんど。これとこれしかないからこうやって比較されてますけども、第3が出たらそれもまた比較できると思います。今現在はこちらのほうが、今のところいいっていう形で市長も言われました、私も思います。ただこのあと、例えばじゃあケーブルさんも頑張りますと、どういうふうにしますかと、1ギガまでこれを上げるようにしますと。値上げをしない。でも、これ僕が作りしました。ちょっと下手ですけども。

NTTのフレッツ光ってのは電線でこう来て、家の中までここまで光ファイバーなんですね。光ファイバーなんですよ。だから1ギガ出てる。1ギガかな、うん。ただし、ケーブルテレビの最大のネックは、ここまで来たらここまで光、同じ光です。ところがここからここまでが銅線なんですね、メタルなんですよ。だからここをいくら速くしてもこっからここまでが遅いんでなかなか家の中は速くならない。もしくはもう一つ言わせれば、これから多分さっき市長はお答えになられませんでしたけども、Wi-Fiっていうのがものすごくキーワードになってくると思います。Wi-Fiも、だから高速で出せないんですね、これがネックになって。だからそういうふうな面に関して、どちらを選択するか、そしてもう一つ

は今言いましたWi-Fi。Wi-Fiがですね今年——Wi-Fiってわかりますよね。わかるでしょ、Wi-Fi。Wi-Fiわかるですね。Wi-Fi今年1月からですね、規制が変わりました。規制が変わって今まで最大600メガだったですね。600メガだったのが今上限で6.3ギガ。さくさくですよ。もう押す前に出てる、「いやいや、それない」と呼ぶ者あり）ような速さだと思います。だからもう全然違います。さっきから私が言ってるのは、地域によるネット弱者をぜひ救済していただきたい。そしてよそから武雄に移ってくる人たちは、武雄はこれだけ進んでいるんだっていうのをぜひ知ってほしい、アップロードもダウンロードも。そういう意味でこれで頑張っていたきたい。それも一つの周辺部とか武雄市への移住の条件になると思うんで、先ほど壇上で言いました、人口減対策の一つにも大きな武器になります。

これは、ネットがなかなかやっつけられない方はわからないかもしれませんが、ネットに少しでも、スマホを持っている方は、これものすごく助かるし、移住するとき、企業が来るとき、大きな条件になります。もし例えば6.3ギガでWi-Fiがある——6.3ギガまでちょっと実質なかなか今では無理なんですけど、今1.3ギガぐらいが上限ですかね、最新の機種で。これ例えば工場の中でも、広い工場、例えば工業団地がありますね。工場の中でも従業員さんは離れたところでも事務所行かないで指示書さくさく来るんですね、設計書さくさく来るんです。おんなじ工場の中でも大きいところはわざわざ行なくていい。そういうふうに大きく、大きくっていうか、大きな武器になります。ぜひこのWi-Fiのほうもこれから充実させていただきたいんですけども。そして新庁舎のほうも、もちろんこのWi-Fi制度が来ると思います。この辺についてのお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ゆくゆくはですね、20年後、30年後のこと考えたときに、おそらくもうあれなんですよね、地球どこでも多分高速のWi-Fiになると思うんですよ。ですのでその前をどうするかっていった場合にね、Wi-Fiはやるのはもう大賛成なんですけど、ただ水道管と一緒にね、もともとWi-Fiとしてこう飛ばすといったときに、ここの管が太くないといくらこのacだっても、そこで出ているねacであっても、もともと管が細いと水飛ばないわけですよ。だからここは光が絶対必要なんですよ、光が。そこからWi-Fiで飛ばすというふうになるんで、実はWi-Fiの整備っていうのはあわせてね、光をどれだけ武雄市に引き込むかっていうことなんです。これADSLじゃもう無理なんです。ですので私は光をね、どんどんやっぱり入れていきたいなというふうに思ってます。

こういう経験があります。今私はケーブルワンでテレビも見てますけど、おかしいなこれデジタルのはずなのに、夕方夜7時ぐらいに見てるとね、あれなんですよ、結構こうかすん

で見えるんですよ、はい。今テレビももう実際光、フレッツにもなってきてるんで、もう変えようかなと思ってます。やっぱり快適に見たいですもん。あんな高い価格でね、見るのももうどうかなと思っていて、私は安くて快適なものを選ぶと。さらにいいサービスが出てきたらそれはまた乗りかえるっていうふうになっていくと思うんですね。

そういう意味で言うと、最後にしますけど、この11a cっていうの、もうむちゃくちゃ速いです。もう体感からしてこれほど速くなるのかと。ただしこのまた10倍ぐらいね、速いものが出てくるっていうふうにも聞いてますので、この技術の進歩っていうのは恐ろしい速さだと思っていて。なるべく私は周辺部の皆さんたちにこういう地理的な不便さってやっぱりあるじゃないですか、周辺部っていう以上は。だけど技術はね、技術はやっぱりいいものを、ぜひこれは民間の、行政だけではできませんので民間のところと組んでね、御提供をしたいなど、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田勝浩議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱりそこ導線が速くないと、先つちよびゅっぴゅってなると思うんで、ぜひそういうのをやっていただきたい。これちょっと戻しますけども、この辺も全部入ってないんですね。古川議員さんがいつも武内町を何とかしたいっていうことと言ってらっしゃるんですけども、その武内町のほうもこの、入っていない。それでやっぱり、これも古川議員さんの受け売りですけども、武内町はこうやって教育の最先端を行っている。そういう中で、やっぱりその今タブレットも使っている中何とか整備したいっていうのも、古川議員さんから常々御指導を受けているんですからね……（発言する者あり）はい、よろしくお願ひしたいと思います。この辺、あとはやっぱりこのところの整備ですね。これ全部向こう持ちでやっていただければ少しは変わるかもしれないんですけども。すみません、とりあえずこういうことで、武雄市内のネット弱者を救っていただける希望が出てきましたので、ぜひやっていただきたいですし、今の答弁でさらに周辺部とか武雄市内に移り住む人が、ひょっとすると今これを聞いて、これだったら、あと企業も出てくるかもしれませんのでぜひお願ひしたいと思います。

では次の質問です。ワンストップ行政。ワンストップ行政は、これはですね、私も以前に質問しましたし、そして私今IT特別委員長なんですけども、私の前の黒岩前議員さんもこのIT特別委員長で、今市のIT顧問でちょうど見てらっしゃるんですけども、見てられるとちょっとにくい部分もあるんですけども、ワンストップ行政というのはどういうことか。それは市民も助かりますよね、1回で済むから。それだけじゃないんですよ。ワンストップで済むということはITの力を借りてですね、ITとかソフトの力を借りてワンストップで済むということは職員さんもそれだけ楽になるという言い方じゃないです、職員さんもそれだけ別のことに、新たな行政課題に力を注ぐことができる。だからこのワンストップ行

政というのはものすごく市民の方々にとっても、そして職員さんの方々にとっても、執行部にとっても新しい行政課題次から次に出てくると思います。先ほど言いましたこういう課を新しくつくりたい、つくりたいという中で今のマンパワーを、今の職務だけで職務をこなしながらやるとプラスアルファになりますけども、これをやることによって市民も、そして職員さんも、職員さんは新たな市政の課題に力を注げることができる。ぜひこのワンストップ行政っていうのを、これはもう引き続きです。私も質問してますし前委員長さんも質問してます。これが、この前ちょっとデモができたっていうふうにお伺いをしました。その辺のところの事情をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

ただいまワンストップの行政の実現ということで御質問いただきました。このワンストップ行政のメリット、今議員のほうから御指摘をいただいたとおりでございます。このワンストップ行政を実現する上でもう一つ我々のほうが注視しておりますのが、平成29年の1月からマイナンバー制度が実施をされます。実はこのマイナンバー制度によりまして、ワンストップ行政の位置づけの中でも書類の削減だとか、あるいは手続の簡素化といったような目的も当然ございました。このマイナンバー制度の導入によって書類の削減あるいは、同様に手続の簡素化、これも図れる可能性が出てきております。

このマイナンバー制度、それとワンストップ行政の具体的な手法。これについては我々のほうも具体的になってきておりますマイナンバー制度の内容、これと十分リンクをさせながら今後もこのワンストップ行政の目的に合うように、マイナンバー制度も活用してまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

わかっているんですね、それは重々もうそうやって。昔から住基ネットというのが、住民基本台帳ナンバーっていうのがありました。それと同じような形なんですけども、いかに武雄モデルをつくるかというところなんです。今言われた中ではこういうことでメリットあります、マイナンバー制度を利用しますと。確かに利用しなきゃいけないと思います。そういう中でですね、やっぱり武雄市なんです。武雄市は普通のことやっちゃだめです。やっぱり新しくよそが、それが市長、夢なんです。うちはがんじょうばいって。変なことじゃなかです。武雄モデルというのをつくらなきゃいけないと思う。例えばですよ、何十億とかかあぎソフトなんて高いですから、普通のソフトなんて3億、5億すぐしますから。そういうのじゃなくて、武雄モデルでできるだけつくっていただきたい。それがさっき私が何で

あそこでシリコンバレーという言葉を使ったかという、市長も以前、武雄をシリコンバレーのようにしたいと、だからこの上でさっき使ったんですね。それがやっぱりこれにもつながってくると思うんですよ。インフラの整備、そして武雄モデルのワンストップ行政、そして何と言うんですか、よそが見に来る、極端なこと言えばですね、武雄市さんこのシステムどがんとしたとですか、いや、武雄で開発したばいって、そいぎちかっとわけてくれんですかって言われるくらいの、やっぱり何と言うんですか、我々IT委員会も頑張りますし、何とか市のほうもですね、これは地場産業の育成っていうのを、これはこの後質問する雇用の確保ってのもつながるんですけども、ずっとつながっちゃうんですね、話は。それはどうでもいいことです。そういうふうになるからぜひこの武雄モデルという形をつくってください、頑張ってください。その辺のところはいかがでしょうか。可能性はわかりませんが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当にそうだと思うんですね。これだけやっぱりICTって今まで遠い話だったと思ってるんですけど、今もう皆さんが、私はドコモのiPhoneを使っていますけれど、これでもうほとんど、例えばチケットの予約もこれです。コンサートの、まあチケットというか、できますよね。予定表も私は全部この中に入れてるんですね。これはかなりICTの技術があって身近になっているじゃないですか。これを行政にぜひやっぱり活用したいということになって、思っています。お名前は挙げませんが日本を代表する経営者がね、恐らく今後の市役所っていうのはこれ一つで済むようになるよということをもう言っています。じゃあその分だけ、じゃあ職員さんは要らないんですかねっていうふうに聞いたら、いやそんなことはない。要するに市民福祉の維持向上のために、企画をしていくというためには、これはICTじゃ無理なんで、これはよく黒岩幸生前IT特別委員長も言っていましたけど、機械ができる、ICTでできる部分については、もうこちらでと。人しかできないものについては、考えることですよ。企画することですよ。人の気持ちを動かすことについては人っていうふうに、こうすみ分けができると。ですので、こうICTの技術を入れることによってワンストップもさることながら、24時間365日その行政情報にアクセスできる。場合によっては市役所に日曜日に来なくてもね、そこでここでも発券ができるということにもなりますので、ぜひこれはチャレンジをしていきたいと思っています。そのためにはやっぱり牟田議員さんが要なんです。大きい体ですので、よく要石となって我々のほうにこういうふうにするべきじゃないかという発信をお待ちしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ここに大きくワンストップ行政、本当はいろいろこういうのはどうか、こういうのはどうかと細かいことがあると思うんです。やっぱり今の市長の言葉だけで全部これから多分ですね、武雄市はこの武雄モデルとして全国に注目されるようなことでやっていただけると今確信いたしました。我々委員会も、そして顧問とともどもに、やっぱりいろんな形で御提案、そして応援する分は応援するという形でこれをやっていきたいと思います。これもさっき言いました、よそから武雄に来たいという大きな武器の一つであり、武雄に住んでいる者は大きな夢の一つです。スマホが、先ほど市長がおっしゃいました、スマホを持ってこういうできる時代で、我々夢だったんですね。ウルトラセブンでもしもして言っているの。もう実現している、夢が実現している。それをぜひ武雄モデルでやっていきたい。また細かいことはあまり言いませんけどもぜひやっていただきたい。

それに合わせてもう一つは、それを使った例えば防災とかいろんな情報提供、そういう部分もやっていただきたい。これはさっき言いました、条件というのは全市的なインフラ整備が必要なんですけども、そういう部分をやればぜひできると思います。例えばこうやって洪水が起きちゃった。例えばボタン1つで、打ち込み1つでどこどこが洪水が発生、関係者に全部できる。それをどういうふうな対応をとればいい。そういうふうなマニュアルとかきちんとそれもITでできます、スマホでできます。これも別の地区です。別の地区でこうやってやってる、どこどこでやった。すぐA消防団出動しなさい、例えば建設会社さん、土のうを持って行ってくださいって、いろんなことがICTでできると思います。

これも一つの提案でございます。例えばこれは永野の風穴ですけども、永野の風穴もこうやってあります。いろんな観光情報にしてもいろんなことがICTでできると思いますので、ぜひ武雄モデルでやっていただければ幸いです。そういう中でこれをやるためにはどうすればいいか。すいません失礼しました。もう一つあった。

これは佐賀新聞で発表された、もし万々万が一、玄海原発で何かあったときのその流れの予測シミュレーションです。これはスピーディーとか風の流れですぐ察知できます。これ武雄市ここなんですけども、こういう中でこういう情報もICTでできれば逃げる方向なんてすぐわかるんですね。これ例えばこの人が武雄市のこの人がこっちに逃げたらここ横断してしまうわけですね。例えばきちんとした情報でこっちに逃げる、この人はこっちに逃げる、この人はもうすぐこっちに来なさい。そういうのもICTの技術で全部連動してできると思います。いろんな面も今言ったワンストップに限らず、いろんな面もこうやってできると思う。これは実現可能な部分だと思います。ぜひこういうのを含めてやっていただきたいですし、そういうのをするためには行政のフォーマット化。きちんとそれぞれの職員さんがこういう事業をしていますよという中でやっていったら、それをソフトとかに打ち込むことによっていろんなことができる。だからこういうふうな形でぜひ今、国からもこういうこ

とでやったらどうかと 5,000 項目か何か 6,000 項目が来ていると思うんですけども、そういう中でぜひこういうのもつくって行政に役立てていただきたいと思います。きょうはこの I T 関係、市長からもすごくこう夢のある話を聞いて、これをユースト、ケーブルテレビとは言いません。ユーストで見た方は武雄本当にこうなるのかっていう期待を胸に抱いたと思います、市長の答弁で。それがこの武雄の武器なんですね。ぜひこれからもこういうことを使って武雄モデル、突き進んでいただきたいと思いますし、次の質問に移らせていただきますけども、議長さん時間はいかがでしょうか。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1 時 20 分まで休憩をいたします。

休	憩	11時59分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほどの I T 問題から、今度は雇用、人口減対策というふうに移っていきたいと思います。人口減っていっぱい、きょう、今度の議会も出ましたよね。そういう中で、私ももうずっと周辺部の人口減とかいろいろ言ってきました。

でも最終的にはですね、最終的には大きな柱というのは雇用だと思います。雇用がなければなかなか入ってこない。東京とか大阪、人口がふえているんですね。何でふえているのか。まちに魅力があるのか。いろんな面もあるかもしれませんが、よく言われるのは、東京に仕事に行く、就職に行く。仕事のあるけんがこそ遊ばれもするし、やっぱり雇用というのは大きな地域の活力源の 1 つだと思います。樋渡市政 8 年。この雇用、どのように大きな面で変わってきたのか。その実績、それをお教えいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをお願いします。

(モニター使用) これですね。これ、今までの 2 期 8 年の実績なんですけれども、極めてひどい不景気感の中で、うちは前の北川理事ですよ、その前の亡くなった伊藤理事、そして現千賀さんが一生懸命やって、ここ職員は、うちはエースを集めていますので、その結果がこの 1,120 人という数字なんですね。別にこれ、近隣と比べても仕方ないんですが、この 8 年間で、ある近隣の市はゼロ。ある近隣の市は 200 人ちょっと。だから、この 1,120 人て

というのがどれだけ大きい数字かというのは、これ一重に二重に職員の頑張りになろうかと思っていますので、この場を借りてね、本当に労をねぎらいたいと思っています。

ですので、これからなんですけど、少なくとも次の任期4年間で工業団地を全部埋めるように、もう若木は埋まりましたので、今度の北方の新団地を全部埋めるようにするというのが私の最大の仕事だと思っていますので、これは担当職員と力を合わせて頑張っていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

こういうの、急に入ることになるんですね。例えば、若木で工業団地、今埋まったって市長がおっしゃられました。例えばこの雇用の部分でも、例えば仮の話、若木町から工業団地に約25名行っていらっしゃるとすると、もしそこに雇用がなかったらどうなったか。少なくともその中の20人は市外、県外に出られたわけですね。雇用があってこそ初めて地元にももらえる。つまり、向こうから来るのも、よそから武雄に来ていただく、よそから武内に来ていただく、朝日に来ていただく、若木町に来ていただく。そういうのもあるけど、今住んでる人が外に出ないでいいように、できれば反対によそから武雄に来るようにこの雇用ってやつを十分確保してないといけないと思います。

先ほど、ちょっと画面が変わりましたが、千百数十名雇用が生まれたと。もし、この千百数十名がなければ、ひょっとするとその中の600名くらいは市外、県外に行ってたかもしれん。世帯でいうと300世帯ぐらい減ってたかもしれない。だからこの雇用ってやつは大切なんですね。東京にいる友達、和歌山にいる友達、広島にいる友達、武雄に帰りたい、帰ってきてもいいよと。両親もいるし、俺も一人っ子やけんね、長男やけんが。ばってんが、仕事のあるねて言われるわけですね。

特に大学、理系の人ってのは、帰ってきてても仕事がなかなかないと。だから本当は帰りたいんだけど帰ってこれないんだよっていうのを言われるわけです。

だからこの雇用っていうのは、さっき言いました、福岡、東京が何でふえてるのかと。仕事の派遣ですよ。楽しかっていうのもあるかもしれませんが、魅力があるかもしれません。学校っていう面、まあ学校も一つのこれかもしれないんですけども、あるかもしれん。だからこの雇用の面に、ぜひ先ほど市長がおっしゃった、もうあそこを満杯にする、数千人規模かどうかわかりませんが、とにかく雇用が最大の柱だと思います。人口減対策、もしくは増につながるよう。

ここで何度も、将来佐賀県は100年後何人、全国は何人って出てます。都市間競争なんてもう、15年前から言われてます。だからもう武雄はですね、今せっかくいろんな武器を、さっきから言ってるように手に入れる、知名度がこれだけ上がった、そして、さっき言われた

Wi-Fiです。全市、光を通すとか、そういうのあって、玉を持っているわけですね、よそと比べたら。だからこの雇用、さらに増やしてほしいんですけども、再度、樋渡市長の御意見を聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、しっかりやっていきたいと思いますね。もちろん、その工業団地を埋めるというのは、もう私の最大の仕事になりますけれども、あわせて、これは昨日も一昨日もお答えしましたけれども、起業家をぜひ呼び込みたいと。武雄が——少なくとも、まあこれ牟田議員さんも同感だと思うんですが、やっぱり8年前の今とじゃ全然もう武雄に対するその期待度とかね、期待値が変わってるっていうのは私自身も実感をしていますので、ようやく、こうブランドになりつつあるなっていうのも思っています。ですので病院だったり図書館だったり、あるいはその人の力を結集してね、さらにこう企業を呼び込む、あるいは起業家を呼び込む。しかしね、やっぱりイメージって大事なんですよ。

議員の中に、やっぱり借金をね、踏み倒そうとしてるっていうのが、私もこれブログもフェイスブックもたくさん書きましたよ。もう数十万の人たちが見ている、そんなところはどうかということにもなっていますので、そういう意味で、その議員の果たす役割というのは、すごく私は大きいと思います。ただ、私もこういう性格ですので、言うべきことはきちんと行っていきたいというふうにも思って——特定していませんよ、僕。ですのでしっかり行ってきたいなというふうに思っています。

いずれにしても、今度ブランド力をさらに増すことによってね、人、物、金を呼び込むきっかけにしたいと思いますし、ぜひ牟田議員さんにおかれては先頭に立って、一緒にこう頑張りたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

人、物、金なんですね、本当に。返さんざいかんですよ、おいも商売しようけんが。まあ、ちょっとそれは余談になりましたけど。何て言うのか、ちょっと——あ、そうだ。思い出しました。

僕が——今、視察多いですよ。視察、いっぱい来てます。視察いっぱい来てる中、僕、議長をしてたときに、挨拶するときに、よそから来た人に必ず言った言葉が、一番最初に言う言葉があるんですね。それは何かというと、樋渡市政になって最初にやられたのは、産業部、経済部を営業部に変えられましたと。名称、営業部長です、営業課長ですというふうに組織改革をされました。これが最初ですって言って紹介するわけですね。よそから来た議員

さん、視察先に。そしたらですね、みんな驚かれるんですね。ほとんどが、やっぱり産業部とか経済部なんですよ。営業部っていうのはまだ少ない。その中で、その当時から営業という言葉が使われていたっていうのに、物すごく共感されている。だからこの雇用、先ほど市長がおっしゃられたブランド力があつたら、その次は何か、営業力です、マンパワー。

この前、去年やったですね、決算委員会ってやつ出させていただきました。決算委員会の中で私が指摘したのがあります。この議会の中でもですね、共産党さんやったかな、市長の旅費交通費のこと質問されましたよね。僕は決算委員会で、逆にですね、営業に交通費ば、旅費ばいっぱいつけんとが反対におかしかったやなかかて。このぐらいの——これぐらいちゅうぎいかんばってんが、旅費で本当に営業部で、よかとですかって、企業立地課こんくらいでよかとですかっていう指摘をしました。というのはですね、例えば、うちも商売をしています。商売して、例えば飛び込みでA酒店に行きます、うち酒屋ですから。A酒店に行つて、最初屁もかませられません。2回目行つて、しゃべつてくいて、3回目行つて、やつとこの棚の2本を置いとうけん、置いときんしゃいって、2本置きます。次行つては、取つてくれません。またさらに行つて、また来たねって、そいぎ今度は1ケース置きなさいって。4回5回行つて、5ケース、10ケースにふえる、これが営業だと思います。

だからどっちかという、市長はトップでいかなきゃいけないんで、そういうのつづのは必要なんですけども、企業立地課とか、そういう営業に関する分はですね、絶対にこれから動く企業は、旅費交通費ばつけていかんぎですね、おいはいかんということも思つて、決算委員会でも指摘しました。皆さん方の営業が、企業立地、雇用につながり、その営業部の売り上げが生産者の利益になり、収入になり、だから僕はさっき紹介しました、営業部に一番最初変えたつていうのは、そこだと思つたわけですよ。営業で一番最初に必要なその交通費がけられちゃ話にならんと。今はいいですよ、6月年度初めだから。これが9月、10月、11月になるとなくなつて、よそからその旅費を借りてくる、予備費から借りてくる、そがんタイムラグがあつてよかとか。もし、余あぎ最後、不用額で出せばいい、よそに利用すればいい。

ぜひ営業力に力を入れていっていただきたいんですけども、この辺の答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そっくりそのまま受け取つて、9月議会に計上をいたします。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

営業は、やっぱりけちつたらだめですよ。これも、さっき上で言つたの続くんですね。

アメリカのフェイスブックでレクチャーしたときに、ここさっき言葉出しましたよね。スピードこそ命だと。日本は、問題がなければ動くとか、それにやっぱりつながってくるんですよ。やっぱりそのところで、やっぱりこれはけちっちゃいけないです。絶対に職員さん、あしたここに行かなきゃというときが出るから、ぜひ行っていただきたい。

9月つけられるとおっしゃいましたけども……（発言する者あり）うれしいんですけども、もう一回その意気込みを言ってください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはですね、なかなかうちの職員さんは何て言うんですかね、控えめで——あ、違ったみたいですけど。やっぱね、あれなんですよ、かなり自腹使ってるんですよ。

〔20番「そうそうそう」〕

例えば、すごちゃってという言葉ありますよね。人のところに行くときに、こう手ぶらで行けないって。でも、これを買える経費すら、実は認められていないんですよ。だから、私はいいとしてもね、一般職の職員が営業に行くときにね、ほとんどこう赤字になってるっていうことは、ちょっとそれはね、あまりにも気の毒だと思うんですね。だからまず、そういったマイナス部分を少なくともゼロにするようにはね、予算の手当てはしていきたいなというふうには思っています。ですので、江原議員がね、以前私の出張旅費にこういちゃもんをつけられたんですね。その気持はわからんでもないんですよ、わからんでもない。しかし、我々は職員にも言ってますけれども、それを実績で返そうよって、実績で。ですので、それを考えた場合に、あのいちゃもんっていうのが——それはお気持ちはわかりますけれども、きちんと今実績で返っていていると思ってますので、これはうちの同僚職員もね、そうやってこう自腹を切らせるっていうことについてはね、それは任命権者としてじくじたるものがありますので、そこは十分にケアをしていきたいなと、このように考えております。

その必要額について、これは市民の税金でありますので、いっぱいいっぱいじゃなくて、もう本当に効果が出るような予算の計上をさせていただきたいと、このように考えております。（「いちゃもんじゃない」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

〔20番「ちょっと——質問中です」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

繰り返しになります。人口がふえているところ。人口がふえるところ、大きな原因は、例えば一つは大都市のベッドタウン、そしてもう一つはさっき言った、この、仕事があるところ。

仕事があるところが必ずふえています。

企業立地課の人たちが頑張って、例えば旅費に100万かかったと。でも雇用が30人、50人のところを1つ引っ張ってくると、何十倍も返ってくるわけですね。(発言する者あり)

200万かかったと、でも300人雇用するところあれば、100倍の効果が生まれるわけですよ。(発言する者あり) ぜひこの雇用——住宅をつくる、いいと思います。でもね、仕事がなければ家は建てられない。帰ってきたくても、仕事がなくてはいけない。よその地区から武雄に来たくても、なかなか仕事が、県外から来たくても、武雄に住みたいと思ってもない場合がある。ぜひこの雇用地域の、さっき言った競争力の1つとして、中心の柱として頑張ってもらえれば幸いです。先ほど答弁でもうもらいましたけども、頑張ってってください。応援したいと思います。

普段はですね、一般質問というのは、ここの経費使い過ぎじゃないかと批判して、これは何かって言うんですけど、やっぱり逆にですね、ふやしていただきたい部分は、きちんと我々議員もこうやってお願いをしていくと思います。ぜひ職員の方々も頑張って成果を上げていただければと思います。雇用、本当に大切だと思います。さっき言った営業部ですね。やっぱり営業ですよ。営業で引っ張ってくる。それがひいては市民のため。

雇用の次の質問、雇用の中の質問なんですけども、今この議会でも何度か出ましたお結び課、お住もう課、出てます。これも今まで縁結びっていうのは今まで行政がタッチしないようなところにもこうやってきたと。お住もう課にしてもそうやって住宅のほうでやってくると。

例えば、これは1つ提案なんですけども、今まで行政がタッチしていなかったと。佐賀県内——全国そうなんですけど、どこの自治体も就職に関しては全部ハローワークに任せっぱなしなんです。窓口がハローワーク1本なんです。どこの自治体行ってもハローワーク。ぜひですね、お結び課って、今まで手を出していなかったところ。就職の窓口の僕は1つ——これはまだ精査していかないし、そういうふうな今まで聖域、それはもうハローワークだから、国だからというボールを、例えば1つは、今度新しく企業を引っ張ってくると。企業を引っ張りましたと。その窓口をうちでもいいですよとか、いろんな方策がとれると思います。

今例えば公民館に公民館補助員がいらっしゃいますけども、そういう方々もこういうふうな就職先とかなんとかっていうのを探して、できるだけ地元の方が外に出ないような形で持っていくとか、そういうふうな、今言いましたように全部どこの自治体もハローワークに任せっぱなしなんです。窓口が。

だから、そういうふうな形で、例えばさっき言った営業で頑張ってきて引っ張ってきた、そういうのの窓口になるとかですね。

繰り返しになりますけども、例えば公民館でそういう補助の人でいらっしゃる、いろんな

方々をそういうふうな1つの課とは言いませんけども、そういうふうなセクションがあればいいと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりさすが牟田さんですね、無駄がない。（笑い声）私もそうだなと思って。たしかに自分の反省するところは、就職とかきたときに、ハローワークどうですかねとかって言って、言えば丸投げしてたっていうのはやっぱりあるんですね。ですのでちょっとこれ法的にちょっと、我々が窓口になるとか、斡旋ができるかっていうのはちょっと勉強させてください。その上で、もし言うてできるということになった場合には、お住もう課の切り札にこれをしたいというふうに思っております。その際ですね、やっぱり窓口がいくらでもあるというのはかえって御利用者にとって不便だと思うんで、まずですね、これはちょっと法的に許されればの話ですよ、許されればの話なんですけど、ハローワークと情報をこう共有すると。ハローワークさんと人事交流も含めて、同じ公務員ですので、やるっていうのはあるだろうなというふうに思っています。

ですのでそういう意味で言うと、今までハローワークという出島が1つあったのが、私どものほうにもあるっていうことで、少し見方を変えれば、かなり変わるんですが、パスポートがそうだったんですね。昔、我々がほら、大学生だったときは県庁まで行かなきゃいけなかったと。何回も行かなきゃいけなかった。今は市役所で、もう1回か2回行けば済みますよね。

ですのでそういうふうに身近なところに、やっぱり窓口があるっていうのは、非常にこれは市民にとっても安心につながると思うんで、いい提言をいただいたと思っています。だから我々としては、できることはやっていきたいなと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

よろしくお願ひします。雇用が人口減対策の大きな切り札だと思いますので頑張っていたきたいと思います。

続きまして、次の議題に移りたいと思います。次は民生委員さんに関してのお伺いです。

民生委員さんというのは、仕事はこういうふうにしてあるんですけども、地域住民の方々、助言、その他、援助をする、活動を支援する、本当民生委員さんて大変だと思います。

例えば1つの例で言うと、うちの前に独居老人の方が——これ1回言ったかな。独居老人の方がいらっしゃったんですね。独居老人の方がいらっしゃって、80近い方だったんですけど、ここ四、五日見てなくて、でもテレビの音はする。ドンドンドンドンたたいても、なか

なか出てこない。そういうときは区長さんとか民生委員さんに連絡いくんですね。民生委員さんが出てきて私もちょうど家の前だったので、これはもう鍵を壊して入ろうと。鍵を壊して民生委員さんと一緒に入っていったら、肺炎でもう死にそうで。すぐ救急車で運んでいったと。その人、おかげさんで元気になって帰ってきて、誰だこの鍵を壊したのはって言って、民生委員さんと2人怒られたんですね。

やっぱり民生委員さん大変です。そういう民生委員さんっていうのはなかなか大変だから、なり手が無い。民生委員さんの、基本は無報酬です。厚生労働大臣の囑託を受け、だいたいは無報酬ですけども活動費っていうのがあります。活動費は年間10万円ないぐらい、ですね。そういう中で本当、大変な仕事をされています。

今、よくテレビにのってる神奈川県で行方不明児童。そういうのに関しても、ひょっとするとこの民生委員さんはこれから先、いろんな調査とかなんとかでされるかもしれませんし、いろんな面で大変だと思います。そういう中で民生委員さんの、今、なり手が無いんで年齢がどんどん上がってます。70から75歳が14名、70歳未満が36名、ほとんど60歳以上の方々が民生委員さん。これはもう仕事の関係で仕方がないかもしれませんが、ひょっとするとこの辺の方々、反対に自分ば見てもらわんざいかん人も、(笑い声)年代的に同年代の人も見ようかもしれん、実際ね。でも本当大変なんですよ。これは、なんでかじゃないんですけども、こういうのも周辺部とか、もちろん町の中でも独居老人いらっしゃる。これもやっぱりこうやって、民生委員さん児童委員さんが頑張ってくれるから安心してできるっていう部分もあると思います。その御苦勞の分に関して、なかなか活動費というのも思うようにならない。

そしてもう1つは守秘義務というのがあって、個人情報も民生委員さんにもなかなか流れてこないんで活動もしにくくなる。そういう中で、民生委員さんのそういうふうな待遇改善とかは望めないのか。今、年間だいたい民生委員さんは65歳以下が基本なんですけども、ずっとふえて75歳以上までふえてきてる。そういう中で、なり手がだんだんなくなっている中、そういう待遇面の改善、もしくはそういう面、金銭面ではないけど、他の面でなんか頑張っている民生委員さんに対して、そういうふうなお手伝いができないものかお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず活動費については増額をしたいと思います。ただね、ちょっとごめんなさい、これモニターちょっと用意してなかったんですが、武雄市は今どうなっているかと、県内の10市の中でどうなっているかっていうと、会長さん、竹内会長さんですよ、会長さんは月額1万円、委員さんは9,000円になっています。一番高いところは、唐津市さん、佐賀市さんが同額で、

月額1万1,700円で、唐津さんの委員さんが1万700円となっていて、県内でいうとかなりやっぱり高いほうなんですね。市の名前は挙げませんが一番安いところが、会長さんが5,831円、委員さんが4,850円というようになっていて、その下から2番目についても、会長さんが6,800円で委員さんが6,500円っていうことになっているんですよ。

だから今、武雄市がじゃあ安いかって言ったらまったくそんなことはなくて、県内で言うと3番目か4番目ぐらいに高い状況になっているんですね。ですので報酬上げますけれど、上げて、じゃあ上げ幅にもよるかもしれませんが、来ていただくのかといたら、そういう直結はしないと思うんですね。ただ、労に報いるということはあるんで。

それと大事なのがかなり作業等が煩雑になったりとか、さまざまな御苦労がありますので、その負担をちょっと軽減するという点については、それはやっていきたい。

前、民生委員の戸野さんが、武内町のね、戸野委員さんが、いっぱい台帳のあって、それ全部私が書き写さんばいかんやって、民生委員さんは。それはその民生委員の会議で聞きましたので、全部一括して行政がお渡しをするというふうになったんですね。

ですのでそういうふうに当たり前で大変だと思ってくださってることを、1回教えていただいて、できるだけ業務を軽量化、軽減化するっていうことが大切だと思ってますので、それも踏み込んでやりたいと思います。

それともう一つが、ある地区ではね、区長さんも大変ですけども民生委員はもっと大変という話もやっぱり出てるんですね。ですので、これも民生委員さんの役割でしょうかと。

例えば家庭でDVがあったとすると、一番最初に話いくのが、行政じゃなくて民生委員のほうにあって、民生委員さんがDVの現場に足しげく通われていると。それ結構消耗されるというのが、結構いろんな地区で今出始めてきているんですよ。

だから、今まで想定もできなかったようなことがこうなったときに、果たしてこれが民生委員さんの仕事なのかなということもありますので、この役割っていうのもね、あわせてこれは調整する必要があるだろうということは思っています。ですので、どんどん仕事が膨らんでくるなということもありますので、そこは一旦行政のほうでもしっかりこれ、民生委員の竹内委員長さんとも調整をする必要があると思ってますので、一旦業務の軽減化については私どもでしっかりやっていきたいなと、このように思っております。本当に民生委員、主任児童委員の皆さんたちには感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今の市長の言葉を聞いて、たぶん民生委員さんをやってる方は本当に喜んでると思います。

私ですね、以前、民生委員選定委員の市の委員長をしてみました。そういう中でいろんな苦

労話、大変な話を聞いてきて、やっぱりこうやって我々議員もこういう現状とか、例えば、今市長が言う、神崎市さんが——あ、言っちゃった——少ないんですかね。(発言する者あり) 言っちゃった、ちょっとごめんなさい。(発言する者あり) はい、神崎市さんが一番少なくても、次多久市さんが少ないんですけども、やっぱりそういう問題もありますけども、微々たるものですけど、そういう気持ちが嬉しいとか、あとはやっぱり行政が民生委員さんに対してこれから多分高齢者も進み、いろんな事件が起き、仕事もふえてくる中、そういう姿勢で民生委員さんを見てくれる、本当大変だなと見てくれる、こういう姿勢が大切だと思います。そういう姿勢になっていただけてくれたということだけでも、私はこうやって質問したかいがあるというものですから、ぜひ、今市長が言われた部分でこれからもやっていただきたいと思います。本当にありがとうございます。

では続きまして、税の減免、補助。これは畜産業に関して。これは通告でも言いましたけども、12月議会で牛の生育農家の税の減免という条例が出てきました。そういう中でですね、武雄市はですね、イノシシがちょっと今、全面に出ていますけども、武雄市はやっぱりすごいんですね。

これは農林水産大臣賞、若木町の原口さんです。実はこれも農林水産大臣賞の古川さん、これは乳牛。これも大臣賞。トリプルで、全部佐賀県武雄市がとったんですね。これはすごいことだと思うんですよ。

本当にあったら市でそういうセレモニーもしていいんじゃないかっていうぐらい、すごいと思いますけども、まずはちょっと、この質問の一手手前の段階でこういう賞、ほか、どういう方々がとられているのかをまずお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

今年の2月に第23回の佐賀県畜産共進会がございまして、今、議員さん御紹介いただきましたその原口様、古川様、堀様が、最優秀じゃなくてグランドチャンピオンという形で一番上位の賞をとられました。そのほかにもですね、肉用牛で若木町の笠原様、山下様、川内様、あと肉豚の部でも、若木の久保様、川口様も最優秀賞、または優良賞を受賞されているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さすが、いい言葉を使われます。グランドチャンピオン。オリンピックで、柔道で金メダルにとって、レスリングで金メダルにとって、フェンシングで金までとって、さらにそれ以外でもほとんど銀メダル、銅メダルをとられているということです。やっぱり武雄ってというのは

すごいんですね、この畜産業に関しては。

さっき言いました12月議会、12月さきの議会で、肉牛のほうの税の減免っていうのが出てきました。今現在、例えば豚、PEDでしたかね、下痢の症状、いろんなのが出てきてますけども、そういうふうな補助とかそういう減免、牛に限らず豚とか、そして鳥もありますんで、そういうふうな、どういうメニューがあるのか、どういうことを補助しているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山下営業部理事

○山下営業部理事〔登壇〕

今、畜産農家の経営には支援をするという形で、牛、豚等の死亡が発生いたした場合は家畜共済制度がございます。それとまた、家畜や卵ですね、鶏卵。鶏の卵の販売価格が生産価格を下回った場合については、その補填をする経営安定対策事業もございます。そのほかには家畜が死亡した場合、処理場までの搬送費の支援。母豚を導入する場合、それについても助成を行っているところでございます。

今、議員さんおっしゃいました、本年3月31日に豚の流行性下痢、PEDが本市でも発生いたしまして、大変心配したところでございますけども、4月13日以降は、新たな死亡は出ていないという報告を受けております。

PED対策にかかります補助といたしましては、農場の出入り口、また場内の消毒用の機材、薬品、そしてまた人材費に、そのウイルスの拡散防止が必要でございますので、それに掛かる経費の補助がございます。経費としては2分の1、半分が補助をされるということでございまして、今回農協と連携をいたしまして、取り組んでいるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱりこうやってすばらしい地域の特産、改めてすごいなと思いますし、またそういうふうな補助、そしてPEDが出たらすぐに対応していただく、そういうふうな姿勢も本当に感謝したいと思いますし、例えばこういう特産を生かした、例えば加工場をつくりたい、販売場をつくりたい、そういうふうなメニューがあつたらぜひ、例えば生産農家にでもそういう流通関係の人にも、ぜひそういうのを拡散していただいでですね、さらに地元の売上げを伸ばしていただいで、地元にお金が回っていくような形でやっていただければと思います。ぜひ、よろしく願いいたします。

では、続きまして最後の質問です。最後の質問は施設の整備になります。施設の整備、これは前、上田議員さんがスポーツ施設の部分で聞かれたということを聞き及んでいます。

これは薩摩川内市の競技場です。さきに上田議員さんの答弁があつたというので、深くは

言いませんけども、ちょっとひとつだけ。先般、うちの父が亡くなりました。うちの父が亡くなって、父の選挙のときにこういうことを言ってました。コンベンションシティを目指す、これが一つの公約で、父はやってきたのを思い出しております。

コンベンションセンターというのは、いろんな大会を誘致しようということで、やっております。今回、文化会館とか、体育施設、以前複合施設という形で、市長がそういうのを目指してやりたいということで、ここで言われておりました。我々議員も複合施設、視察に行きました。

当初はですね、複合というのはどうかなと思ってはいたんですけども、ざっと考えていたんですね。ずっと考えていたら、例えば建てる。その複合施設を建てる費用というのは、例えば合併特例債。特例債は市役所があるので、そっちのほうまで回るかどうかわかりません、特例債。それに準じて有利な過疎債。そういうのを使えば建物というのは、割かし手出しが少なく、ある程度はありますけど、できるんじゃないか。でもこれは常々樋渡市長が言われているように、維持費、管理費、これが大変だと。例えばスポーツ施設を単体でつくるよりも、複合施設で大きくつくったほうが維持、管理費というのは半分というか、何分の1で済むんじゃないかっていうふうにも考えてまいりました。

玉がなければ、なかなかそういうふうな大会も呼べない。そういう中で、いろんな考え方があると思うんですけども、ぜひ、その玉をつくっていただきたいと思います。やっぱり、つくるのにも維持管理費のことを考えながら我々も提言していかなければいけないと思います。つくったときは、さっき言った特例債、過疎債という部分が十分使えますけども、維持管理費に関しては手出しっていうのがほとんどですから、そこのとこまで考えて提言もしていかなきゃいけない、お伺いもしていかなきゃいけないという形で、こういうふうに質問させていただいております。

これも1つの逸話なんですけども、私が中学校のときに、コンサートに行きました。コンサート行って、前座が終わって、御飯食べに行ったときに隣にそのバンドのグループが来たんですね、どやどやって。まだデビューしていない人たちが。一緒に行きたいとこの兄ちゃんが、こいつら有名になるかもしれないからサインでももらっとけということで、サインをもらいにいったんですけども、それが今のサザンオールスターズですね。桑田佳祐さんとかなんとか。そのときに、しばらく一緒にしゃべっていたんですよ。お兄ちゃんどこからって。佐賀からって。佐賀の武雄と、もちろん知りませんよ。そしたら、将来的に私たち有名になったら武雄、そこに呼んでよみたいな、冗談で私言われていた。その桑田さんとか由子さんから。そしたら、4年前ですね、その、手紙を出したんですよ、桑田さんに。僕が中学校のときに、こういうふうに来ましたと。ぜひ武雄に来てくださいと。その後、事務所の人と打ち合わせすることになりまして、それだからということで、今の武雄の文化会館の見取り図を送ってくれと。送った途端、断りの電話がきました。すいませんと。この規模ではできま

せんと。(発言する者あり)

ぜひ、玉がなくては、なかなか呼べないというのがあります。そして、維持管理のことも十分必要です。再度、その施設についての執行部のお答えをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁に入る前にですね、借金の話じゃなくて、けさですかね。西日本新聞とNHKに割と大きく載ってましたけれども、北九州市がちょうど高度経済成長期に建てた箱物、特に社会体育施設ですよ。これについては寿命を迎えていて、維持管理費が膨大にかかるというので、整理統合の方針を出すということが書いてあったんですね。

これ、武雄市も例外じゃないんですね。ですので、文化会館の大ホールを含めて、白岩も、体育館もそうですけれども、当然対象に入るというときに各町の、あるいは小学校で言いかえてもいいかもしれませんが、さまざまな体育施設やいろんな箱物があつたときに、当然のことながら、今度、白岩体育館と文化会館の大ホールを一緒にしてね、こうセットにして、いわゆる総合体育館をするっていったときに、当然のことながら、それはスクラップ・アンド・ビルドで、寿命を迎えているような施設については整理統廃合を進めなきゃいけないと。進めたくはないですよ。だけど進めないと、今度、牟田議員さんがおっしゃったように、新たな総合体育館の維持費すら賄えなくなるということで、そこは勇気を振り絞ってね、議員の皆さんたちについても、その説得に当たっていただければありがたいと、いや、当たっていただこうと思っております。

いずれにしても維持費がかからないように、そして結構、国や県の補助をね、十分に活用しながらしていきたいと。できれば、佐賀県もね、県の東部ばかりじゃなくて中央部じゃなくて、西のほうに県立の体育館をつくってほしいですよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）たまに同意していただけるんですね、こっち側も。いや本当、そうだと思うんですよ。県に100%出せとは言いませんけど、少なくとも折半するとか、我々が1割で、向こうは9割とかね。そういうこともする必要あるだろうと思います。これ、ひがみなのかかもしれませんが、何かね、県の東部ばかりですもんね。ちょっと……（発言する者あり）まあ、県会議員の問題じゃないと思うんですけれども。ですので、それも含めてね、県ともやっぱりちゃんと調整をしたいなっていうふうにも思っています。いずれにしても市民の負担がかからないようにね、それは議会とよく相談をしながら、そういった総合体育館の建設に向けて、踏み切っていきたいなと思っております。現状は、今適地を探しておりますので、適地の選定というのは年内に、ぜひその方針は出していきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今ちょうど、この次言おうかなと思ったんですけど、やっぱり県の西部地区の部分というのは必要だと思います。上田雄一総務文教委員長さんが筆頭になって、そういう誘致活動を県に働いていただけたらと思いますけども、我々もですね、委員長、尻をたたきながら頑張っていきたいと思います。

ちょうど全部質問が終わりました。今回の質問はですね、やろうかやるまいか、ちょっと迷ったんですけども、市長の答弁、いろんな話を聞いて、やってよかったと思います。本当に皆さん、ありがとうございました。以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、20 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10 分程度休憩をいたします。